



指導員訪問② 3年 音楽科「拍にのってリズムをかんじとろう」 品川 真奈美 教諭

2拍子にのってえんそうしましょう。

●そのほかのパートのリズムをくらぶよう声かたことしなれば、  
 拍にのってえんそうしましょう。

ゆかいな木きん

4分の2拍子

歌声、リコーダーや鍵盤ハーモニカの音色が校舎内に響き渡ります。5/8より5類感染症となり、常時換気など対策を取りながらも、4年ぶりに本格的に音楽の授業が再開しました。

品川教諭は、本教材「ゆかいな木きん」の活動を通して音を合わせて演奏するよさ、面白さに触れ、友達と共に学び合い、まとまりのある演奏をする喜びを実感してほしいと願いました。そこで、

本時では、拍子やリズムに興味・関心をもち、互いの音を聴き合って演奏する姿があったかどうかです。

まず、前時に撮影した演奏を視聴。そこから、各チームが拍をそろえるために「手拍子」「膝で拍をとる」「体を揺らす」「足で拍をとる」「指揮者を見る」などを確認し、『拍ばっちりそろようアイテム』と命名しました。



そして、チーム練習です。1班では体を揺らして練習開始。ところがなかなか合いません。「足の方がいい」「手拍子で練習！」と試行錯誤。ここでC5が「○さん（低音パート）が追い付いてないよ」と。ここから**演奏スピードを落として練習**が始まり、何と拍がそろいました。

各チームによる演奏発表後によかったところを聞きました。どこも確実に上達したことを確認できました。

協議会では、演奏ビデオの視聴や全体合奏の有効性、聞き合うための場所などの工夫、アイテムカードの提示方法の提案など出されました。指導員から、①チーム

学習の有効性、②音楽づくりでの音のイメージ化（言葉）、③拍を取りながら演奏する→どう拍を感じていれば合わせることができるか、の大切さを

ご指導いただきました。

さて、上記で仲間を心配したC5は、2拍子をよく意識して聞いていました。私なら「低音パートって大切？」とゆさぶりますがいかがでしょうか。C15の発言こそ、演奏を聴き合い、音を合わせた喜びの姿ですね。



＜授業記録より一部抜粋、編集＞

- 【4班の演奏♪】（アイテム：膝で拍）  
 C1：膝で拍をみんなが見て演奏していたところがよかった。  
 C2：確かに！  
 T3：お友達同士向き合ってた？  
 C4：確かに、確かに。  
 C5：低音パートが、ドーの間に、2拍子、1、2でドが終わるんだけど、それをしっかりそろってた。  
 -<略>-  
 T12：●それぞれのチームがばっちりそろえられたよね。この4つのチーム全部合わせたら、3年4組の演奏ばっちりそろうかな？  
 C13：無理、無理（多数）  
 【クラス全体で演奏♪】  
 T14：どうだった？感想言ってくれる人  
 C15：何か、グループでやるより音が大きかった。